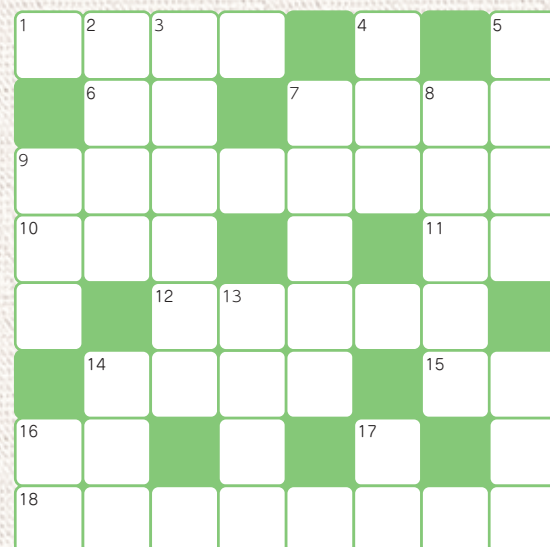


タテのカギ

- 味方の中にいて、こっそり敵に通じること。「敵方とーする」
- 英語としては「海岸の」を意味する形容詞。外来語としては名詞化されて「海岸」を指していることが多い。
- 銀行などの金融機関が、利息（金利）を得る目的で、会社、個人などの資金需要者に金銭を貸し出すこと。ローン、借金（しゃっきん）ともいう。個人向けの小額のサービスはキャッシングともいう。
- 天から与えられた運命。自然の理法。「ーに任せる」
- レストランなどの飲食店の前には〇〇〇〇〇〇の食品サンプルが置いてある。
- ゆっくりした速度で走ること
- 首をやや前に出し、背を丸めた姿勢。また、そのようなからだつき。
- 電力の使用量を節約すること
- ズボン、スラックス。ズボン式の短い下ばき。ブリーフ・ズロースなど
- 夜ー、「ーの空」⇄暮れ
- 人から受ける、感謝すべき行為。恵み。情け。「ーを施す」「ご〇〇と奉公」

ヨコのカギ

- 花の、萼（がく）の内側にあって雄しべ・雌しべを保護する小片
- アルファベットの5番目の文字。インターネットに関するものやIT関連企業にもたまに付けられる場合がある。
- 年をとった人。年寄り。
- 高温・多湿の環境の中で水分の補給を行わず、長時間活動を続けることで体温の上昇・脱水・循環不全などが生じることで様々な症状が出現します
- 2本以上の線状のものが、ある一点で交わること。また、互い違いになること。
- 世界水泳 北島康介選手は 200m平泳ぎは惜しくも〇〇メダル
- 宇宙人、エイリアンのこと。比喩的に、非常に風変わりな人。「彼はまるでーだよ」
- 競馬場で、レース前に出走馬を引いて、観客に見せる場所。下見所。
- 示し合わせて悪事を企てる仲間。共謀者。一味。「〇〇になって人をだます」
- アズキ・インゲンなどの豆を煮てつぶし、砂糖や塩を入れ、さらに加熱して練ったもの
- 福岡和白病院の増築している部分には「HNVC」と言われる「心臓・脳・〇〇〇〇〇〇〇〇」が立ち上げられる



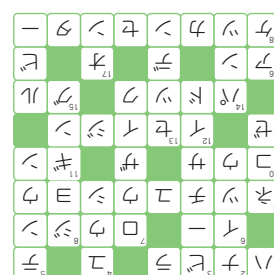
解答はページ下段に掲載しています。

基本理念

手には**技術**、
頭には**知識**、
患者様には**愛**を

基本方針

- 高度医療** 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備整備の拡充に努めます。
- チーム医療** 患者様の目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、急性期医療から、早期リハビリ、退院支援までニーズに沿った医療を提供します。
- 地域医療** いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療・福祉施設と密接な連携を推進します。



福岡和白病院

病院機能評価認定 臨床研修病院



社会医療法人財団 池友会

福岡和白病院

〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2-75

TEL.092-608-0001

E-mail:info@f-wajiro.biz http://www.f-wajiro.biz

地域医療により大きく貢献!!

社会医療法人財団 池友会
Fukuoka Wajiro Hospital

福岡和白病院

いのち、 痛みに全力

第28号

CONTENTS

- 2・3 新武雄病院 院長
西田 憲記先生インタビュー
- 4 バンコク病院 提携調印式出席報告
富岡先生の報告
- 5 新入医師紹介
- 6 【前編】青年海外協力隊に参加
アフリカのタンザニアでの
医療活動を経験して
- 7 冷房病に注意しましょう!
- 8 あたまの体操／広報室から

特集

九州・佐賀県武雄市にあるグループ病院

新武雄病院 院長

西田 憲記先生インタビュー

西田憲記(にしだけんき)。

高知県土佐清水市足摺岬(あしずりみさき)出身。

新小文字病院の前院長であり、現脊椎脊椎治療センター長。

かつて、新小文字病院移転という一大プロジェクトの陣頭指揮を取ってきた男だ。

そして、史上初の公的病院民間譲渡で揺れた新武雄病院(旧 武雄市民病院)の移転でも陣頭指揮を取った男でもある。

また、ある医師は『神の手 福島孝徳先生の手術を見学した時は非常に驚いたけど、西田先生の手術を見た時も技術の高さに驚いた』とその腕を絶賛。

スタッフ・患者様及びそのご家族からの信頼も厚く、その人柄に魅かれる者も多い。

脊椎脊椎外科の事、新武雄病院移転の事、…素顔の西田が全てを語った!



Q 先生のご出身は？

西田 高知県土佐清水市足摺岬です。実家に帰るためには新小文字病院からだと8～9時間程かかりますのでちょっとした外国に行くより遠いです。交通の便が悪いので。

Q 幼少時代はどんなお子さんでしたか？

西田 田舎の小学校だったので複式学級でした。一年生から三年生までと四年生から六年生までが一緒に教室でした。当時は『神童』と言われていました。(笑)

Q なぜ医師になろうと思われたのですか？

西田 母親が学校の先生だったこともあり教育熱心でした。長男は医師、次男は弁護士、三男は政治家にする目標があったようで幼少の頃から一種のマインドコントロール的なものもあったかもしれないです。自然と医師の道に進んでいました。

Q 脊椎脊椎外科に進んだ理由は？

西田 私は元々脳神経外科だったのですが、今でこそ治療法も確立され助かる患者様も増えてきていますが、当時私が脳神経外科をしていた時代は手術をしても患者様が寝たきりになるケースが多々ありました。当時は、今のようリハビリも十分発達していなかったですから、命は助かってマヒが残り寝たきりになるケースが多かったです。患者様が良くなるというイメージがなかなか持てなかったです。一方、その当時の脊椎脊椎外科はMRIもない時代でしたから、本当に手さぐりの状態でした。しかし、それでも脳神経外科で頭の手術をした場合よりも、脊椎脊椎外科で脊椎の手術をした方が患者様やそのご家族からも『ありがとうございます。助かりました。』と感謝され、患者様が見るからに良くなっていく姿がうれしく脊椎脊椎外科に非常に興味を持ちました。

Q 新武雄病院移転に関して

西田 病院のある地域によって特性があると思います。福岡和白病院と新小文字病院を比較しても地域に住んでいる人の年齢層や職業も違うと思います。武雄という街は農業に従事されている方が多く、他の地域と比較しても高齢者の多い地域にあります。病院というのは地域医療に根差した病院になっていかないといけないのですから、私達の病院のやり方を患者様に押し付けるのではなくて、私達が病院の中でその地域の患者様が求めているものに変えて行かなければなりません。

福岡和白病院のやり方や新小文字病院のやり方をそのまま持っていても病院として患者様にとってメリットは全くないはず。地域の方々のニーズに応えられるような病院の形態をこれから作り上げて、今まで市外や県外で治療を受けられている地域の方々に武雄で十分な治療を受けられるような体制を作らなければならないと思います。

Q 本を出版されるそうですが？

西田 出版に関しては以前から言われていたのですが、私は本を出したりすることは好きじゃなく否定的でした。しかし、今まで自分がしてきたことを一つの形…つまり、『文字』という形で残すのも良いかと思い渋々とは言わないけれども出版することになりました。

実際に、私は手術で合併症の出た患者様のことや、特徴的な症状や経過のある患者様、あるいは遠方から来られた患者様のことを日記感覚で記録をしていました。旧小文字病院に赴任した時から、少しでも手術の合併症を減らしたいということが頭にあり、且つ同じような過ちを繰り返さないようにするためにそういった記録をしていました。本の出版のお話を頂いた時にどういった形でも良いと言われたので、この記録に残っている人たちのインタビューを中心に構成してもらえるなら良いと思い出版に至りました。

【詳しくは】 社団法人 巨樹の会 新武雄病院 〒843-0024 佐賀県武雄市武雄町大字富岡12628番地
TEL: 0954-23-3111 総務課まで

バンコク病院 提携調印式出席報告

福岡和白病院 副院長 富岡 譲二



去る7月11日、在タイ日本大使公邸で行われた、福岡和白病院とバンコク病院との提携調印式に和白病院代表として出席してきました。

バンコク病院グループは1972年に創設され、現在はタイ国内外に20の医療機関を有する、東南アジア最大規模の医療グループです。同グループは1977年から、東南アジア在住の日本人や日本人旅行者に対する医療

サービスを提供する、JMS(ジャパンメディカルサービス)部門を設置し、数多くの日本人の診療や健康管理を行ってきました。最近では、バンコク病院で治療や健診・人間ドックなどを受けた患者様が、日本に帰国後も治療や健診を継続して行うことが多くなってきています。両国の医療機関で更なる患者様のフォローアップを行っていくために、日本国内の12の医療機関と提携契約を行うこととなり、福岡和白病院もその一つに選ばれました。

調印式は小島大使およびタイ国保健大臣の立ち会いのもとで行われ、バンコク病院グループの最高責任者であるDr. Prasertと、和白病院を始めとする日本国内の医療機関との間で契約書類に調印が行われました。

また、調印式の後、在留邦人代表や内外の報道機関などの出席者に対し、池友会グループの紹介を行いました。民間病院でありながら、積極的な設備投資により最新の医療を提供していること、独自の医療搬送用ヘリコプターを運航していることなどが、出席者から高く評価されました。

今後、この契約に基づき、和白病院を始めとする池友会グループが継続した治療を行えるような体制を作っていく予定です。



新入医師 紹介

- ①所属部署
- ②出身大学
- ③趣味

放射線診断・治療センター長
おちあい れいじ
落合 礼次

- ①放射線科
- ②宮崎医科大学
- ③無趣味

そんなこんなで、また和白病院にお世話になります。お役に立てる様、精進したいと思います。



えもと たくや
江本 拓也

- ①放射線科
- ②山口大学
- ③散歩、ドライブ

画像診断領域で医療に貢献したいと思っています。



きた がわ
北川 マミ

- ①放射線科
- ②東京女子医科大学
- ③絵画鑑賞

専門分野は核医学のFDG-PET検査の読影です。現在、放射線診断医としてCT、MRIを中心に読影をしています。地域医療をもっとうに診療をしています。



こ が
古賀 まり

- ①内科(内分泌代謝内科)
- ②福岡大学
- ③料理、アンティーク家具収集

再生医療に携わった経験上、数年前に高齢者の脳細胞再生が発見され、常にどのような状態からでも、再生の可能性を信じ医療を心がけています。



はまだ まほ
濱田 麻穂

- ①内科
(肝臓内科、消化器科)
- ②愛媛大学
- ③読書、スポーツ

今までは、肝臓内科を中心に勉強していました。今後は消化管の勉強もさせて頂く予定です。よろしくお願い致します。



前編

青年海外協力隊に参加 アフリカのタンザニアでの 医療活動を経験して

リハビリテーション科
佐々木 圭太

2008年3月28日、むせ返るように暑いタンザニアの大地に降り立ち、僕は始まったばかりの2年間の異文化体験に胸をふくらませました。

和白病院に勤めて3年目の春ごろ、「なにか今だからできることをしたい。今しかできないことをしたい。」という漠然とした思いを募らせていた時期、たまたま青年海外協力隊の存在を知り、気がついた頃には選考試験と2か月の語学研修を終え、JICAの青年海外協力隊員で理学療法士として赴任していました。

タンザニア共和国はアフリカの中でも屈指の観光名所を有する雄大で美しい国です。沿岸地域にみられる独特の文化はスワヒリと呼ばれ、アフリカに根づいた土着の文化とイスラム圏の文化が融合することで形作られた文化です。中でも私が住んでいたザンジバル島はスワヒリ文化発祥の地で、古都ストーンタウンは白亜のスワヒリ建築に埋め尽くされています。

そんなストーンタウンの一角にあるムナジモジャ病院が私の配属先でした。国立病院のうちの一つで、ザンジバル島にある唯一の総合病院でもあります。おせじにも清潔とは言えない(というか汚い)環境の中、主に外来の患者様達を対象にリハ診療にあたるのが私の主務でした。リハビリはおろか医療自体の概念が正しく定着していない上に、マンガーの木から落ちて骨折、落ちてきたヤシの実が直撃して打撲、マラリア後の脳症、暴漢にナタで襲撃され負傷、近くの刑務所の服役囚など、日本ではありえない患者様も訪れます。そんな慌ただしいリハビリテーション科の中で理学療法士の資格を持っているのは、私のほかにはハッサンという現地スタッフただ一人。ほとんどリハ室に顔を出さないハッサンやリハ室の前に並んだ患者様の列を尻目にせせと汗を流し、時には少しでもリハビリの環境をよくするために各部署を奔走するなど孤軍奮闘。とにかく目の前の問題にがむしゃらにぶつかっていたのが懐かしく思い出されます。

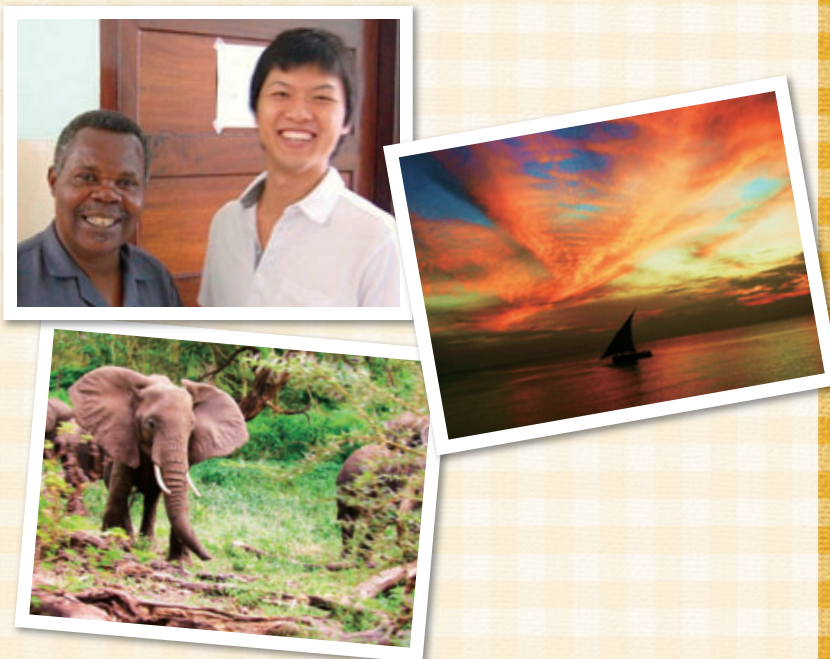
何事にもものんびりで一見怠惰に見えるタンザニア人の気質は、とにかく仕事一筋で働きまくる日本人にはとてももどかしく映ります。ともすれば自分だけが働いているような気ええして、どうして自分ばかり走り回っているのだろうか、とはがゆい思いをしたのは一度や二度ではありません。

そんな私を包み込んでくれるのは、患者様達がさりげなく掛けてくれる一言でした。

“Nakuhitaji.Unanipa moyo.”

現地のスワヒリ語で、“おれにはお前が必要なんだ、あなたが心をくれるわ”という意味です。そう言ってくれる人たちの表情はとても優しく、ストレスに負けそうな自分の心を強く励ましてくれるのでした。ムナジモジャ病院で過ごした期間、22ヵ月で延べ11,000名の患者様のリハビリに関わることができました。

後編へ続く▶▶▶



ブログ『maisha ya kta』

タンザニアで過ごした2年間、見たまま感じたままを素直に綴ったブログです。自分で読み返しても新鮮に感じるがあるので、きっとみなさんにも多くのことを感じてもらえると思います。興味のある方はぜひどうぞ。

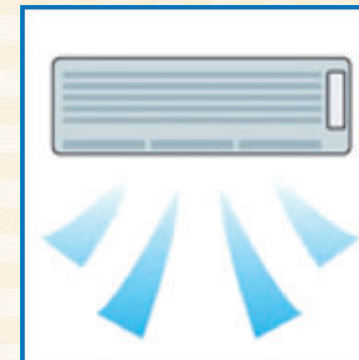
<http://maishajara-cta.seesaa.net/>

冷房病に注意しましょう!

冷房病が特に多いのは、女性や乳幼児・高齢者などです。

冷房病とは、冷房の冷たい風を受けることで、体温が下がり、全身的な血行不良を引き起こすことをいいます。冷房病は、全ての人に同じように現われるものではなく、冷え性などその人の体質によって様々です。冷房のきいた部屋に長時間いたり、冷房の風が当たる体の位置によって色々な症状がでてきます。冷房の冷たい風を①頭・首・肩など上半身に受けると、頭痛・肩こり・風邪が起こりやすくなります。②腰に冷房を受けると、腰痛・神経痛・膀胱炎・下痢・腹痛を、そして腰以下を冷やすと坐骨神経痛・こむらえり・足のだるさ・不眠症を引き起こしやすくなります。

冷えの症状としては手足の冷えを訴える方が最も多いといわれています。しかし、自覚しにくい内臓の冷えにも注意が必要です。内臓が慢性的な低温状態になると、免疫力の低下・基礎代謝の低下・内臓機能の低下・自律神経機能の低下・血流の低下の症状があらわれます。



冷房病を回避する7つの対策

- 1 衣服で調節
- 2 軽い運動を心がける
- 3 外気との温度差を5℃以内に
- 4 生活リズムの改善
- 5 シャワーではなくゆっくり入浴
- 6 体を温めるものを食べる
- 7 寝るときに体を冷やさない



～冷房病対策! 足関節底背屈運動～

身体の末端である手足は血液の流れが滞りやすく冷えやすいといわれています。そもそも人間は身体の中の筋肉と肝臓とで熱を作りだしています。そのため関節を動かし、筋肉を動かすことで循環が改善され身体の冷えが解消されます。右の図のように足首をこまめに上下(底背屈)させ筋肉を使うことで体の内から冷えを改善させましょう。

